

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	その他専門店〔造花〕 （店長） 観光型ホテル（経営者）	・クリスマス商材の需要が生じてくる時期であるが、今年は昨年と比べても良くなりそうな手ごたえがある。 ・夏休みに入って家族客が好調であり、個人消費も伸びている。西日本の雨災害の影響が心配の種で楽観はできないが、現在のところ悪くなる要因は見当たらない。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・今年の秋冬のトレンドはベーシックなものとなるようであり、幅広い客層に支持されることが予想されるため、売上増加が見込まれる。
		衣料品専門店（店員）	・来客数は減少しているものの、客単価が上昇してきている。
旅行代理店（従業員） 観光名所（役員）		・来客数及び販売金額が上向いている。 ・国内旅行需要がおう盛であり、8月以降、天候が回復すれば上向いてくる。	
変わらない	商店街（代表者）	・景気が良くなっているとの実感は消費者にはない。また今後良くなってくる要因も見当たらない。商店街で順調に推移しているのは屋台村とパチンコ店だけである。	
	商店街（代表者）	・景気の先行き不透明感から、消費者は支出を抑える傾向にあり、今後についても変わらないまま推移する。	
	スーパー（店長）	・小売業のオーバーストアが競争激化を生み出しており、体力勝負の様相を呈している。ただし、健康志向食品など、商品カテゴリーによっては販売量の伸びを期待できる商品も顕著となっており、今後の拡販が期待される。	
	スーパー（店長）	・全国的には景気回復の兆しがみえてきているようだが、北海道では競合店との競争激化が続いており、今後についてもあまり期待できない。	
	コンビニ（エリア担当）	・原油高騰と日照不足による農家の不振の影響が顕著となってくる。	
	コンビニ（エリア担当）	・客単価の低下が収まったので、来客数が回復すれば売上全体は増加に転じるが、ガソリンの値上げが控えている。ゴールデンウィーク時の値上げの影響を考えると、今回の値上げにより客足が更に悪くなる。	
	家電量販店（地区統括部長）	・今後は、サッカーワールドカップや地上デジタル放送の開始等の大きな話題はなく、現状維持で推移する。	
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・消費者の購買意欲が低下したまま戻りにくい状況にある。	
	高級レストラン（スタッフ）	・地域的には祭などイベントがあるものの、利用頻度のアップを期待できない。	
	高級レストラン（スタッフ）	・7月に観光客数が増えたことは明るい話題であるが、予約件数をみると、8月はプラスであるものの、9月以降は前年と比べてマイナスとなっている。また北海道庁職員の給与引下げに伴い、道職員の予約はゼロとなっている。	
	観光型ホテル（経営者）	・前年に比べれば少し良くなるが、前年の数字は愛知万博によるマイナスの影響を受けた数字であり、平年ベースでは変わらない。	
	旅行代理店（従業員）	・依然として中高年齢層の旅行需要は根強いが、購買単価が減少しているので取扱額が伸び悩む。	
	タクシー運転手	・規制緩和以降、札幌ではタクシーの台数が増え続けており、利用客の減少が続いている。タクシー1台当たりの売上も減り続けており、今後も今の状況がしばらく続く。	
	美容室（経営者）	・春までの購買意欲の上昇感が失せて停滞している状況であり、当分は変わらない。	
	設計事務所（職員）	・建設業界の不祥事に基づく指名停止や営業停止、新規発注物件の減少などの影響により、建設会社の低価格受注の動きが官民問わず顕著になりつつある。	
やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・今後3か月の長期予報によると、暖かい日が続くということであり、秋物衣料の動きが気になる。特にジャケット、コート関連の動きが鈍くなるのではないかと先行きに不安がある。	
	百貨店（販売促進担当）	・明るい材料が乏しい中、自民党総裁選で消費税率見直しが論点として取り上げられそうであり、更に消費心理が冷え込む可能性がある。	
	スーパー（店長）	・新規出店した競合店の影響を直に受け、売上の低迷が続いている。今のところ、5月からの右肩下がりの傾向に歯止めが掛からない状態である。	

	スーパー（企画担当）	・夕張市の財政破たんや住宅建設の低迷など、消費動向に対するマイナス材料が続いていることに加えて、大型商業施設の競合も激化しており、プラス材料がなかなか見当たらない。	
	コンビニ（エリア担当）	・観光も農業も天候面での影響を受けており、心理的に消費が抑制されることになる。	
	コンビニ（エリア担当）	・気温の低下、日照時間の少なさの影響により、秋以降にかけて一次産業に大きな影響が出てくる。	
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・石油製品の大幅値上げにより、消費者の節約気運が高まる。	
	旅行代理店（従業員）	・沖縄やヨーロッパなどの高額商品に対する客の反応は良いが、道内の宿泊需要など近場の旅行が不振であり、売上を伸ばすことができない。	
	旅行代理店（従業員）	・悪天候が続き、一次産業の農業が大きな痛手を受けているため、大きな影響が生じてくる。	
	その他サービスの動向を把握できる者	・知床への観光客の傾斜、天候状況等もあり、離島観光の運行状況は最盛期でも前年実績を大きく下回っている。今後急激に回復する材料は見当たらない。	
	住宅販売会社（経営者）	・住宅ローンの金利が上昇するので、住宅の売行きが悪くなる。	
	悪くなる	-	
企業 動向 関連	良くなる	-	
	やや良くなる	金属製品製造業（経営者）	・原油や鋼材など、原材料の値上げがあり、とても厳しい状況にあるが、団塊世代の退職を控えて、道内でも戸建注文層が多くなりつつあり、少しは良い状況に推移する。
	変わらない	建設業（経営者）	・稼働状態は現状並みか若干上回ることになりそうだが、価格面で非常に厳しく景況感は悪いままである。
		輸送業（支店長）	・原油価格の上昇に対して価格転嫁のできるケースとできないケースがはっきりしてきた。全体的に道内の場合は、価格転嫁できていないケースが多いため、一概に景気回復とはいえない。
		金融業（企画担当）	・観光関連は知床・旭山動物園効果で好調が見込まれるが、個人消費は所得環境が厳しい。地方自治体の財政破たんも表面化しており、心理的にもマイナスとなる。ガソリン価格など、石油製品価格の上昇も企業収益や家計を圧迫する。道内景気には明るい材料が乏しい。
		その他サービス業〔システムハウス〕（経営者）	・仕事量はかなり増えてきそうであるが、条件は相変わらず厳しい。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・第3四半期末での加工量累計値は微増の予測だが、景気を押し上げるだけの量、質ではない。低価格受注の傾向がみられ、量を確保しても、収益構造は改善されるとの判断ができない状況である。
	やや悪くなる	食料品製造業（団体役員）	・原油価格高騰と天候不順による農作物価格上昇の影響が消費者の購買動向を後退させることになり、需要が減少する。
	悪くなる	-	-
	雇用 関連	良くなる	-
やや良くなる		求人情報誌製作会社（編集者）	・農業生産品の二次加工業を中心に人手不足感があり、人材派遣への要求が強まってきている。
		職業安定所（職員）	・医療・福祉関係の求人が増加している。
		学校〔大学〕（就職担当）	・求人及び採用の状況から、今後の景気は良くなる。ただし関東に比べて、採用枠等を拡大している企業が北海道にはまだ少なく、今後の動向に期待している。
変わらない		人材派遣会社（社員）	・どの業界も秋に向けて好転する要素がみられない状況であり、人材の需要も現状と大きな変化が見込まれない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・ファッション等の求人増は、新規オープンに伴う一過性のものであり、今後については大きく変わらない。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は改善傾向にあるが、非正規求人やパート求人が多いことに加えて、就労地が管外や道外の求人が多いことから、求職者が敬遠する傾向が続いている。
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・新規求人数の減少が続いている。	
悪くなる	-	-	